

1. 事業報告並びに事業計画

- (1-1) 日本放射線影響学会第 67 回大会 (2024 年) の準備状況 (大会長: 岡崎龍史 学術評議員)
- 1-1-1 開催日: 令和 6 年 (2024 年) 9 月 25 日 (水) ~ 28 日 (土)、対面開催
9 月 27 日 (金) ~ 28 日 (土) 第 12 回日本放射線事故・災害医学会年次学術集会 (「放射線安全と健康: 知識と協力の架け橋」) との合同大会
9 月 28 日 (土) SIT ワークショップ (講師: 甲斐倫明 先生、續輝久 先生) を学会内に組み入れ。
 - 1-1-2 開催場所: 北九州国際会議場 (北九州市小倉北区浅野 3 丁目 9-30)
 - 1-1-3 テーマ: 「語ろう! 放射線 - これからの放射線課題のいしずえ - 」
 - 1-1-4 実行委員長は香崎正宙 学術評議員 (産業医科大学)、プログラム委員長は小嶋光明 理事。
 - 1-1-5 4 大シンポジウムテーマ 医療被ばく (放射線影響懇話会 (会長: 岡崎龍史 学術評議員) と共催、藤淵俊王 先生、大野和子 先生、2 名の外国人 (韓国、インドネシアから招聘)、低線量放射線影響 (Tom Hei 先生、CE Mothersill 先生、Ignacia Tanaka 先生、香崎正宙 学術評議員)、放射線教育 (松本義久 常任理事、岡崎龍史 学術評議員、赤羽恵一 先生、長谷川有史 先生、越智小枝 先生)、原子力・放射線災害対応 (山下俊一 先生、ウクライナの Sushko 先生 (オンライン)、伴信彦 氏 (原子力規制委員会))。
 - 1-1-6 合同大会内容:
9 月 27 日 (金): 「放射線教育」、「原子力災害時の避難と屋内退避 災害関連死を防ぐために」、「原子力・放射線災害対応」のシンポジウム、京大放生研シンポジウム、WS6 (福島第一原発事故から学ぶ放射線被ばくの生体影響)
9 月 28 日 (土): 最近の事故事例 (明石眞言 先生)、アメリカ原子力施設の規制と推進 (長谷川有史 先生)、福島原発事故の当時とその後-産業医の立場から (東電産業医菊地央 先生)、4 学会放射線事故対策シンポジウム (保健物理学会、産業衛生学会)、京大放生研シンポジウム
 - 1-1-7 9 月 25 日 (水) JASTRO 合同企画「放射線治療の現状と生物学的評価 (HIMAT と FLASH)」
 - 1-1-8 シンポジウム 10 題、ワークショップ 8 題
 - 1-1-9 ランチョンセミナー: 9 月 25 日 (水) 「キャリアパス・男女共同参画委員会」企画
9 月 27 日 (金) 電磁界情報センター
 - 1-1-10 9 月 25 日 (水) 放射線衛生管理学セミナー1 (小倉城)、9 月 26 日 (木) 放射線衛生管理学セミナー 2 (皿倉山)、9 月 27 日 (金) リーガロイヤルホテル小倉で懇親会。
 - 1-1-11 9 月 28 日 (土) 16 時から市民公開講座「最近の放射線治療」。
 - 1-1-12 9 月 28 日 (土) 日本医師会認定産業医 (3 単位) 及び 9 月 27 日 (金) ~ 28 日 (土) 産業保健看護専門家 (11 単位) の単位取得。
- (1-2) 日本放射線影響学会第 68 回大会 (2025 年) の準備状況 (大会長: 田代聡 理事長)
- 1-2-1 開催日: 令和 7 年 (2025 年) 10 月 24 日 (金) ~ 26 日 (日)
 - 1-2-2 開催場所: 広島国際会議場
 - 1-2-3 テーマ: 原爆被爆 80 年からの放射線影響研究
 - 1-2-4 第 6 回アジア放射線研究会議と合同開催。
 - 1-2-5 10 月 26 日 (日) は、原爆後障害研究会と同時開催の予定
 - 1-2-6 共同利用・共同研究拠点「放射線災害・医科学研究拠点」国際シンポジウムを合同で開催
 - 1-2-7 シンポジウム 6 題、ワークショップ 10 題予定
 - 1-2-8 原爆被爆 80 年に関連する特別シンポジウム、ワークショップを企画予定。
 - 1-2-9 実行委員会委員長は、東幸仁 会員 (広島大学原医研所長)、プログラム委員会委員長は吉永信治 会員 (広島大学原医研教授)、事務局長は、笹谷めぐみ 理事 (広島大学原医研准教授) で運営。
 - 1-2-10 市民公開講座は、10 月 26 日 (日) 午後に原爆後障害研究会と合同で開催予定。
 - 1-2-11 10 月 25 日 (土) に懇親会を ANA クラウンホテル広島で開催予定。
- (1-3) 日本放射線影響学会第 69 回大会 (2026 年) の準備状況 (大会長: 床次眞司 学術評議員)
- 1-3-1 開催日: 令和 8 年 9 月 予定
 - 1-3-2 開催場所: 弘前大学創立 50 周年記念会館
 - 1-3-3 テーマ: 検討中
 - 1-3-4 第 13 回若手研究者による放射線と健康に関する教育シンポジウム (ESRAH2026) をサテライト開催の予定。
 - 1-3-5 再処理と核融合をベースとしたトリチウム環境・生物影響に関するシンポジウム等を企画予定。
 - 1-3-6 実行委員会委員長は、三浦富智 学術評議員 (弘前大学被ばく医療総合研究所副所長)、プログラム委

員会委員長は吉野浩教 学術評議員（弘前大学大学院保健学研究科助教）、事務局長は、細田正洋 会員（弘前大学大学院保健学研究科教授）で運営。

(1-4) 共催・協賛・後援

- 1-4-1 令和6年（2024年）6月1日（土）～令和6年（2024年）8月30日（金）までに共催・協賛・後援を決定した学術集会等は下記参照。
- 【協賛】日本放射化学会第68回討論会（2024）、主催：一般社団法人日本放射化学会、開催日：2024年9月23日（月）～25日（水）、開催場所：グランシップ GRANSHIP（静岡県コンベンションアーツセンター）
 - 【協賛】第62回アイソトープ・放射線研究発表会、主催：公益財団法人日本アイソトープ協会、開催日：2025年7月2日（水）～4日（金）、開催場所：日本科学未来館

(1-5) 各種推薦

- 1-5-1 重粒子線がん治療装置等共同利用運営委員会等委員として、吉田由香里 会員と寺東宏明 会員を推薦した。
- 1-5-2 原子力規制庁委託事業「将来の放射線防護体系における規制上の課題に関する調査」の検討委員会委員として、今岡達彦 副理事長を推薦した。
- 1-5-3 第62回アイソトープ・放射線研究発表会運営委員として、砂押正章 若手部会部会長を推薦した。

(1-6) 理事会の開催

令和5年度第12回理事会（令和6年（2024年）6月15日（土））、令和6年度第1回理事会（令和6年（2024年）6月15日（土）を対面形式で、第2回理事会（令和6年（2024年）7月12日（金）～16日（月））、第3回理事会（令和6年（2024年）8月29日（木）～31日（土））をメール会議で開催した。第4回理事会を令和6年（2024年）9月24日（火）に対面形式で開催を予定している。

(1-7) 社員総会の開催

令和6年度第1回（定時）社員総会（令和6年（2024年）6月15日（土））に対面形式で開催した。第2回社員総会を令和6年（2024年）9月24日（火）に対面形式で開催を予定している。

(1-8) 会員総会の開催

会員総会を令和6年（2024年）9月26日（木）に対面形式で開催を予定している。

2. 各委員会からの活動報告及び活動予定

(2-1) 財務委員会（委員長：細谷紀子 副理事長、副委員長：飯塚大輔 学術評議員）

- 2-1-1 随時、予算の執行状況を調査し、特段の問題が無いことを確認した。
- 2-1-2 「旅費取扱規程」の円滑な運用を目指し、随時、関係する委員長（理事）と協力し、申請内容の精査を実施した。
- 2-1-3 学会の財政改善のため、現在の事務局委託業務のうち、削減できる可能性のある項目についての検討を進めてきた。令和6年（2024年）7月から8月にかけて、改めて新委員会委員長や担当理事から意見を収集し、見直し案をとりまとめた。本件について、令和6年（2024年）9月11日（水）に、理事長、副理事長、財務委員会委員長・副委員長の出席のもと、ブルーリッジとの初回の話し合いをオンラインで実施した。
- 2-1-4 令和7年度（2025年度）収支予算書を作成した。
- 2-1-5 令和6年（2024年）9月3日に、令和7年度（2025年度）科研費（研究成果公開促進費（国際情報発信強化））の申請を提出した。
- 2-1-6 令和6年（2024年）9月24日（火）に財務委員会を開催する。

(2-2) 編集委員会（委員長：近藤 隆 会員、担当理事：松本義久 常任理事）

- 2-2-1 計画通り JRR 誌を定期的に発行した。
- 論文投稿から最終判断までの時間短縮のため、査読に値しないと判断した論文は associate editor への依頼の段階で reject、あるいは decline-but encourage resubmission を判断していただくようにした。9月3日時点での JRR 誌の投稿数 232 件、掲載確定数 42 件である。Days to First Decision および Days to Final Decision は 23 および 34 日と以前に比べて、短くなった。IF は 1.9 である（参考までに RR は 2.5、IJRB は 2.1）。

2-2-2 JRR 誌の 2024 年度「寺島論文賞」受賞論文は以下に決定した。

Molecular and cellular basis of the dose-rate-dependent adverse effects of radiation exposure in animal models. Part II: Hematopoietic system, lung and liver.

Keiji Suzuki, Tatsuhiko Imaoka, Masanori Tomita, Megumi Sasatani, Kazutaka Doi, Satoshi Tanaka, Michiaki Kai, Yutaka Yamada, Shizuko Kakinuma

Journal of Radiation Research, Volume 64, Issue 2, March 2023, Pages 228-249, <https://doi.org/10.1093/jrr/rrad003>

(2-3) 広報出版委員会（委員長：富田雅典 常任理事、副委員長：中村麻子 学術評議員、論文紹介企画小委員会委員長：安井博宣 学術評議員）

2-3-1 メーリングリスト（eikyo_tsushin-ml@criepi.denken.or.jp）による学会通信配信を随時実施した。添付ファイルの自動暗号化が廃止されたため、添付ファイル付きのアナウンスも配信している。ただし、My Page 掲載の都合上、ファイル名に日本語名・全角文字は使用できないのでご留意いただきたい。現在、会員からの配信依頼は、Forms で受け付けている。令和 5 年（2023 年）は、233 件配信した（令和 4 年（2022 年）は 280 件）。令和 6 年（2024 年）は、9 月 4 日時点で 140 件である。現在の登録者数は約 725 名である。

2-3-2 経費削減のため、影響学会通信の配信回数を見直す。年次大会や本学会各賞募集等に関する重要性の高いアナウンス等を除き、影響学会通信の配信を原則週 1 回とする。そのため、配信依頼は締切・開催日等が 2 週間以上先の案件のみ原則受け付ける。また、日本学術会議からのアナウンス（ニュース・メール等）は、所属機関から重複して受け取っている会員も多いため、今後配信に含めない。

2-3-3 学会ホームページの更新を随時実施した。特に、「会則・内規」と My Page 内の「定款、各種規程・細則・申し送り」の web ページを整理し、個々の内容を PDF で閲覧できるようにした。

2-3-4 公式サイトへのバナー広告の掲載について引き続き検討を行い、バナー広告掲載基準（案）を作成し、理事会に諮った。早期の運用開始に向けて引き続き準備を進める。

2-3-5 最新論文情報を、令和 5 年（2023 年）は計 19 件掲載した。令和 6 年（2024 年）は 3 月末までに 7 件掲載した。今季の論文紹介企画小委員会委員と分担が決まったので、論文紹介を再開した。

(2-4) 放射線災害対応委員会（委員長：岡崎龍史 学術評議員、副委員長：宇佐美徳子 会員、担当理事：今岡達彦 副理事長）

2-4-1 今年度、郡山市の小学校 4 校で 4 回実施しており、10 月以降郡山市の小学校 5 校 6 回、南会津中学校で 1 回が予定。

2-4-2 今後も放射線セミナーは、郡山市教育研修センターを含め、今後継続していく。可能であれば覚書を交わす。

2-4-3 各地域で教育担当を決めて、各地域の教育委員会との関係を構築し、放射線セミナーを継続的に行うことを前委員長と協議した。

2-4-4 放射線リスク・防護検討委員会とも協力していく提案をしている。

2-4-5 6 月 22 日福島復興・廃炉推進に貢献する学協会連絡会（ANFURD）からの連絡で、8 月 24 日（土）開催の日本原子力学会の第 8 回廃炉シンポジウムの ANFURD 共催の諾否について、諾とし（前委員長）、8 月 24 日シンポジウム当日は、宇佐美徳子 副委員長がご出席した。

(2-5) 企画委員会（委員長：田代聡 理事長、副委員長：吉野浩教 学術評議員、自然災害対応担当理事：田代聡 理事長、SIT プログラム小委員会委員長：香崎正宙 学術評議員）

2-5-1 令和 6 年（2024 年）の第 67 回大会は、岡崎龍史 学術評議員（産業医科大学）を大会長として福岡で開催する。なお、第 67 回大会の一部を日本放射線事故・災害医学会と共催して行う予定である。

2-5-2 令和 7 年（2025 年）の第 68 回大会は、田代聡 理事長（広島大学）を大会長として広島で開催する。なお、第 68 回大会は第 6 回アジア放射線研究会と合同で行う予定である。また、原爆後障害研究会、共同利用・共同研究拠点「放射線災害・医科学研究拠点」国際シンポジウムを同時に開催する予定である。

2-5-3 令和 8 年（2026 年）の第 69 回大会は、床次眞司 学術評議員（弘前大学）を大会長として弘前で開催する予定である。

2-5-4 2024 年の第 67 回大会開催にむけて、大規模自然災害に関する大会参加費免除の案内を行い、1 名の応募があり、第 4 回理事会で審議の結果、免除を行うことが承認された。

2-5-5 日本アイソトープ協会が主催するアイソトープ・放射線研究発表会へ協賛学協会として企画運営に参画している。2024 年 7 月 3 日（水）～7 月 5 日（金）で開催される第 61 回アイソトープ・放射線研究会にて、特別講演およびパネル討論が行われた。第 62 回研究会は、2025 年 7 月 2 日（水）～4 日（金）に開催される。第 62 回研究会へは、特別講演として浜田信行 学術評議員からの企画案「有

害性発現経路 (AOP) : 化学物質規制科学分野における開発の現状と放射線規制への応用に向けた期待」を提出する。

- 2-5-6 本学会のロードマップを作成し、理事会での承認を得た。現在学術委員会とも協議を行い、最終案を作成中である。
 - 2-5-7 令和6年(2024年)第1回社員総会(2024年6月15日(土))では、弘前大学 高度救命救急センター長 花田裕之 教授、福島県立医科大学 放射線災害医療学講座 長谷川有史 教授によるキャッチアップセミナーを開催した。
- (2-6) グローバル化委員会 (委員長:松本義久 常任理事、副委員長:柴田淳史 学術評議員、若手部会部会長:砂押正章 会員)
- 2-6-1 本学会と JASTRO の覚書に基づく合同企画として、第 67 回大会 (岡崎龍史 大会長) にて学会合同シンポジウム「放射線治療の現状と生物学的評価」を開催予定である。この開催にあたり、JARR の「学会連携企画セッション等開催助成制度」に応募があり、審議の結果、承認された。
 - 2-6-2 IARR 定款の改定に関し、IARR より承認依頼があった。JARR における審議の結果、承認された。本年7月に IARR にて定款が正式に改定された。
 - 2-6-3 令和6年(2024年)9月4日(水)から9月6日(金)にかけて第1回メール会議を開催した。砂押若手部会会長から提案のあった若手部会役員案を承認した。
 - 2-6-4 令和6年(2024年)7月、会員外の企業より若手研究者向けのイベントについて、事務局に連絡があった。若手部会では、先方の事業や今回のイベントについてオンライン会議で情報確認を行い、周知の可否について部会役員、委員長、広報出版委員会 富田雅典 委員長と検討した。その結果、先方が営利企業であることなどの理由から周知しないこととなった。その他、本会学会員から2件の若手部会員に向けた情報周知の依頼があり、対応した。今後、若手部会員内での情報共有のあり方について検討する。
 - 2-6-5 若手部会主催の研究会として、令和6年(2024年)8月8日(木)~9日(金)に電力中央研究所にて、第4回若手放射線影響研究会を開催した(世話人:橘拓孝 部会役員、砂押正章 部会長)。現地・オンライン合わせて41名が参加し、学生を含む若手研究者の口頭発表が行われた。若手優秀発表賞の選考が8名の学生筆頭演者に対して行われ、慶應義塾大学の林僚汰 部会員が受賞した(表彰式は第67回大会中の若手部会総会において執り行う)。本研究会では、公益財団法人中辻創智社から頂いた会議開催費助成金が、若手部会員2名の旅費援助に活用された。新たな試みとして、研究会運営費として、9名の影響学会員から寄附金を頂き、研究会の必要経費に充当された。本研究会への寄附金の残金は使途特定寄附金として、影響学会の会計に導入する。
 - 2-6-6 第67回大会における、若手部会企画ワークショップとして、「放射線発がん細胞老化を考える-DNA 損傷応答や細胞動態の観点から-」をテーマとしたワークショップの準備を進めた(企画者:中山貴文 部会役員、砂押正章 部会長)。
- (2-7) キャリアパス・男女共同参画委員会 (委員長:平山亮一 理事、副委員長:藤通有希 学術評議員)
- 2-7-1 令和6年(2024年)9月25日(水)に、日本放射線影響学会第67回大会において第11回キャリアパス・男女共同参画委員会企画セミナーを開催する予定である。今回のセミナーでは、2名の講師をお招きし、講演をしていただく予定である。セミナー開催後に報告書を作成し、影響学会通信で会員に公表するとともに、委員会の HP に掲載する予定である。
 - 2-7-2 男女共同参画に関わる大会参加支援として、第67回大会で「託児費用援助」の申請を受け付ける予定である。
 - 2-7-3 第67回大会においても属性調査を実施する予定である。本属性調査は、委員会の HP に掲載する予定である。
 - 2-7-4 平成28年(2016年)度より男女共同参画学協会連絡会にオブザーバー加盟学協会として参加し、令和5年(2023年)11月1日(水)より正式加盟学協会となり、今年度も継続している。また、第22回男女共同参画学協会連絡会シンポジウム(2024年10月12日(土)10:00~16:30、開催形式:中央大学茗荷谷キャンパス特大教室(1W01) & オンライン開催)に参加登録した。昨年度の学協会活動紹介原稿を提出する予定である。
- (2-8) 規約委員会 (委員長:小林純也 副理事長、副委員長:鈴木正敏 学術評議員)
- 2-8-1 学会の運営が円滑に行われ、学会の発展に貢献できるように、理事会の指示、会員からの要望に応じて、定款・規程等の改定・整備について委員会をメール開催して検討していく。
 - 2-8-2 この冬に監事選挙を控えており、監事候補推薦委員会による監事候補の推薦制度が今回の選挙で初めて導入されることから、選挙管理委員会からの要請に応じて、選挙が円滑に進むように協力していきたい。監事選挙終了後、選挙管理委員会から課題等を聴取し、必要があれば選挙規程に反映させるこ

とを委員会で検討したい。

(2-9) 賞選考委員会（委員長：今岡達彦 副理事長、副委員長：鶴岡千鶴 学術評議員）

- 2-9-1 各賞、名誉会員、功労会員の募集・選考を行い、学会賞に松本義久 理事、奨励賞に関原和正 会員、永田健斗 会員、名誉会員に近藤隆 終身会員、功労会員に安西和紀 元会員を理事会へ推薦した。功績賞、岩崎氏子賞については応募がなかった。
- 2-9-2 学生旅費等援助については、学会の財政事情にも鑑みて援助数を削減するとともに、今年度限りの試みとして、応募者を対象に京都大学 JSPS 拠点形成事業『生体内の複雑系を対象とする統合放射線科学の国際研究拠点の形成』への推薦（以下、JSPS 事業推薦）を行い、結果的に例年と遜色ない数の学生会員が何らかの形で援助を受けられるように取り計らった。23 名から応募があり、うち 15 名を採択し、そのうち 11 名については JSPS 事業推薦とした。
- 2-9-3 各種団体の賞（朝日賞、放射線影響研究功績賞及び奨励賞、永井隆平和記念賞）への推薦依頼があり、学会通信あるいは評議員への問い合わせ等により応募者を募った。朝日賞への推薦 1 件を行った。永井隆平和記念賞への応募はなかった。放射線影響研究功績賞及び奨励賞への推薦を行った。また、今後も各種団体からの推薦依頼に対応予定。
- 2-9-4 令和 6 年（2024 年）9 月 26 日に授賞式を行う予定である。

(2-10) 学術委員会（委員長：今岡達彦 副理事長、副委員長：篠原美紀 会員）

- 2-10-1 第 67 回大会における優秀演題発表賞の選考に今岡達彦 委員長が選考委員として協力している。
- 2-10-2 国立国会図書館からの「学協会アンケート」に対し、大会講演要旨集の発刊・公開等の状況についての回答を作成し、国立国会図書館集本事業への対応を検討中。

(2-11) 倫理委員会（委員長：田内広 学術評議員、副委員長：細谷紀子 副理事長、担当理事：富田雅典 常任理事）

- 2-11-1 今期就任された理事等に向けて、本学会の「利益相反（COI）マネジメントに関する指針」および同指針施行細則に従った COI 確認様式を送付し、新任の理事等は必ず、継続就任の理事等は営利企業関係で変更事案が生じた場合に COI 確認書を提出いただけるよう依頼した。9 月 9 日までに新任の理事等から確認書を、継続就任の理事等からの変更書を提出いただき、委員会を開催して利益相反事項の有無についての確認作業を進めている。

(2-12) 教育研修委員会（委員長：笹谷めぐみ 理事、副委員長：坂田律 会員）

- 2-12-1 放射線影響研究所が主催する「生物学者のための疫学研修会」が令和 6 年（2024 年）度 8 月 29、30 日を予定していたが、台風の影響により、8 月 29 日（木）のみの開催となった。
- 2-12-2 日本放射線影響学会第 67 回大会からの依頼をうけて承認した市民公開講座が、令和 6 年（2024 年）9 月 28 日（土）16:00～17:00 に開催される予定である。内容は「放射線治療の最前線 より効果的で体に優しいがん治療を目指して」、講師は大栗隆行 先生（産業医科大学）である。

(2-13) 放射線リスク・防護検討委員会（委員長：小嶋光明 理事、副委員長：三浦富智 学術評議員）

- 2-13-1 令和 5 年（2023 年）4 月～10 月にかけて ICRP 次期主勧告ウェビナーを企画委員会と共催で 4 回にわたって開催した。第 1 回は 4 月 28 日（金）、第 2 回は 6 月 16 日（金）、第 3 回は 8 月 4 日（金）、第 4 回は 10 月 27 日（金）に実施し、参加者数は、第 1 回が 208 名、第 2 回が 269 名、第 3 回が 215 名、第 4 回が 187 名で、合計 879 名となった。参加者の主な所属学会（複数回答）としては、日本診療放射線技師会（52%）、日本放射線技術学会（45%）、日本放射線腫瘍学会（21%）、日本医学物理学会（20%）、日本放射線影響学会（18%）、日本公衆安全学会（16%）、日本保健物理学会（13%）、日本アイソトープ協会（13%）などであり、多くの関連学会と情報を共有する場になったと思われる。現在、影響学会会員限定で 2024 年 7 月 31 日まで全 4 回の講演の見逃し配信を行った。約 50 回の視聴があった。現在、ICRP 次期主勧告ウェビナーのミーティングレポートを作成し、「放射線生物研究」に投稿準備中である。

2-13-2 今年度の活動

- 1) 令和 6 年（2024 年）9 月 25 日（水）に日本放射線影響学会第 67 回大会で「放射線防護のエビデンス構築に繋げるための生物研究～組織反応・確率的影響研究の現状と課題～」と題したワークショップを開催する。
- 2) 放射線リスク・防護に関して、影響学会会員に有意義なテーマを選定し、ウェビナーの開催を検討する。テーマ案としては、トリチウムによる生物影響、医療被ばくに対する個人の放射線感受性の最新動向、低線量率研究の現状、宇宙飛行士の被ばくと人体への影響、放射線による白内障の線量限度に関する経緯と予測、など。

(2-14) 学会事務局

2-14-1 会員動向：令和6年（2024年）5月31日（金）現在（括弧内は令和5年（2023年）10月20日（金）時点「マイページ」登録者数＊在籍者のみ）

- 名簿（「マイページ」登録者）：学会員総数 731（757）名・うち女性 158（166）名
正会員 549（545）名・うち女性 129（126）名、学生会員 51（85）名・うち女性 15（26）名、海外会員 12（9）名・うち女性 1（1）名、名誉会員 39（40）名・うち女性 1（1）名、功労会員 7（7）名・うち女性 0（0）名、終身会員 73（71）名・うち女性 12（12）名。

2-14-2 会員動向：令和6年（2024年）8月30日（金）現在（括弧内は令和6年（2024年）5月31日（金）時点「マイページ」登録者数＊在籍者のみ）

- 名簿（「マイページ」登録者）：学会員総数 762（731）名・うち女性 162（158）名
正会員 556（549）名・うち女性 128（129）名、学生会員 75（51）名・うち女性 21（15）名、海外会員 11（12）名・うち女性 0（1）名、名誉会員 39（39）名・うち女性 1（1）名、功労会員 7（7）名・うち女性 0（0）名、終身会員 73（73）名・うち女性 12（12）名

以上